琉球大学学術リポジトリ

沖縄諸島先史時代石器文化の研究：石斧、石鏃、石皿・台石類

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安里, 嗣淳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/40992

様式第１３号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会　殿

博士論文審査委員会
主査　池田 栄史　印
副査　豊見山 和行　印
副査　赤嶺 守　印

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号 [redacted]		学生氏名　安里　嗣淳	
人文社会科学研究科　比較地域文化専攻		主指導教員　池田 栄史 副指導教員　豊見山 和行・赤嶺 守	
成績評価	学位論文	合格　　不合格	
論文題目	沖縄諸島先史時代石器文化の研究―石斧、石鏃、石皿・台石類―		
審査要旨	本論文は考古資料である石斧、石鏃、石皿・台石類の詳細な検討を下に、沖縄諸島先史時代石器文化の特性の解明を試みた論文である。 全５章からなり、第１章で本論の目指すところを述べ、第２～４章では対象とした石斧、石鏃、石皿・台石類についてそれぞれの研究史とこれを踏まえた分析と考察を加え、これらに対する考古学研究上の評価を行なう。第５章は本論の最終的結論である。 沖縄諸島先史時代についてはこれまで土器の編年作業を中心とした研究が進められてきた。これらの研究の多くは土器の系統論に終始し、石器を含めた文化内容の総合的検討に言及した研究の不足は否めなかった。本論文はこれを払拭し、日本列島縄文文化の系譜を引きながら、沖縄諸島独自の内容をもつ先史文化が形成される過程とその要因について詳細な検討を加えている。その結果、沖縄諸島では縄文文化の根幹をなす森林資源の高度利用と当該地域の特徴である亜熱帯島嶼環境への適応が複合的に進められる中で、独自の先史文化を形成していく過程が明確に示されている。 本論文の取り扱った資料とその分析を踏まえた立論手法、およびその結論には独創性がある。また、今後の当該地域の先史文化研究に益するところが大であり、充分に評価すべきであると考えられる。 これに基づき、本審査委員会では本論文を博士の学位論文に値すると判断する。		

様式第１４号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会　殿

博士論文審査委員会
主査　池田 栄史　印
副査　豊見山 和行　印
副査　赤嶺 守　印

最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号 [redacted]		学生氏名　安里　嗣淳	
人文社会科学研究科　比較地域文化専攻		主指導教員　池田 栄史 副指導教員　豊見山 和行・赤嶺 守	
成績評価	最終試験	合格　　不合格	
結果要旨	本学生は博士論文「沖縄諸島先史時代石器文化の研究 ―石斧、石鏃、石皿・台石類―」を提出し、博士論文審査を終了している。 博士論文は論題に掲げた「沖縄諸島先史時代の石器文化」について、これまでに蓄積された考古学的調査成果に新たな視点から分析を加え、これを踏まえた当該課題に対する理解論を構築する内容となっている。博士論文で提示された研究手法、およびその研究成果には独創性があるとともに、本学生のこれまでの研究蓄積の豊富さと論文としての結実状況が充分にうかがえる。 さらに、副査である豊見山和行の統括の下で行なった本審査委員会による最終試験では、申請のあった博士論文とこれに関連する授業科目等について、口頭による最終試験を行ない、そこで交わされた質疑応答において、当該学生の学位に相応しい研究者としての能力および学識を充分に備えていることを確認した。 これらのことに鑑み、本審査委員会では、当該学生について、最終試験の審査に合格したと判断する。		